

第3章 自転車に関する市民意識

3.1 調査概要

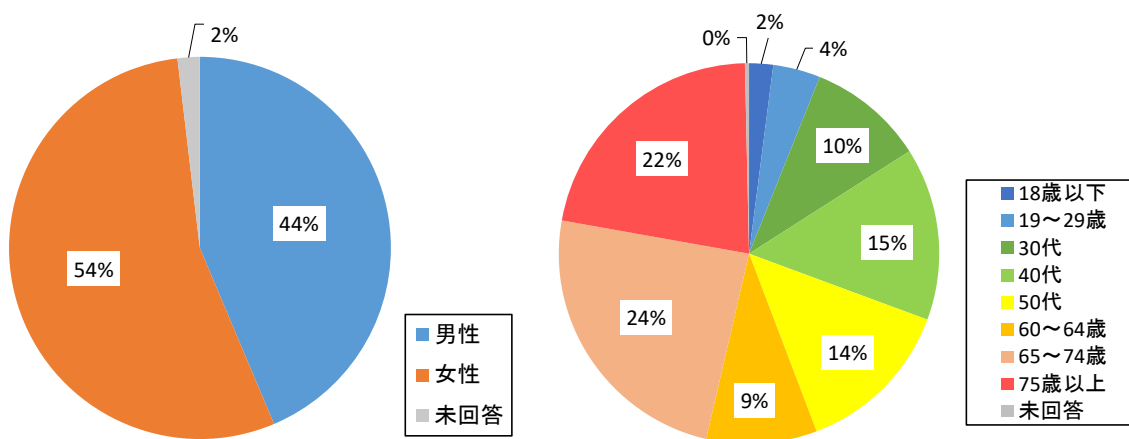
令和元年度に、自転車の利用意識を把握するためのアンケート調査を実施しました。

調査名称	移動手段に関する市民アンケート調査
調査方法	郵送配布，郵送回収
調査対象	15歳以上の宇都宮市民
調査日時	配布：令和元年11月27日（水）～回収期限：12月16日（月）
回収率	有効回答数1,171件（回収率39.2%）

3.2 調査結果

①回答者の属性

回答者の性別・年齢構成は以下のとおりです。



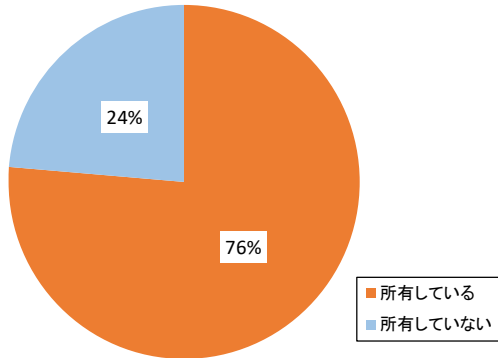
回答者の性別・年齢構成 (n=1,171)



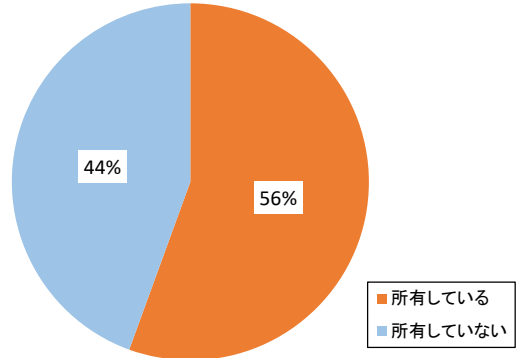
②車と自転車の保有状況

車は回答者の76%の方が所有している一方で、自転車の所有は約半数にとどまっています。

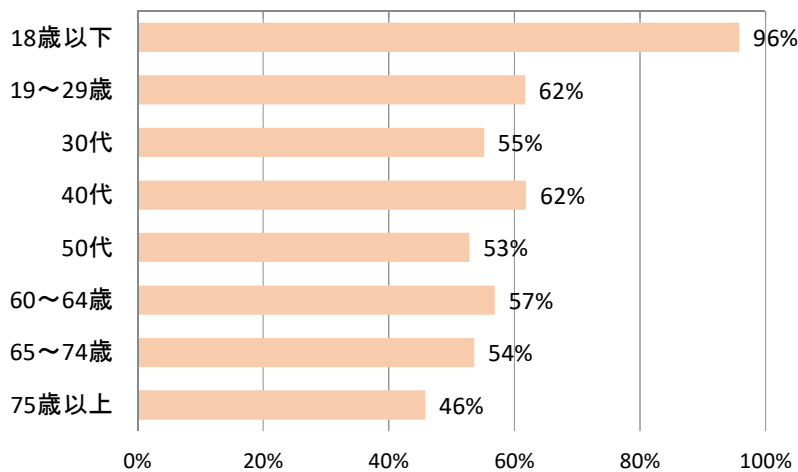
また、自転車の保有率を年代別にみると、18歳以下の保有率が最も高く96%であるものの、他の年代は50~60%前後にとどまっています。



車の保有状況 (n=1,133)



自転車の保有状況 (n=1,135)

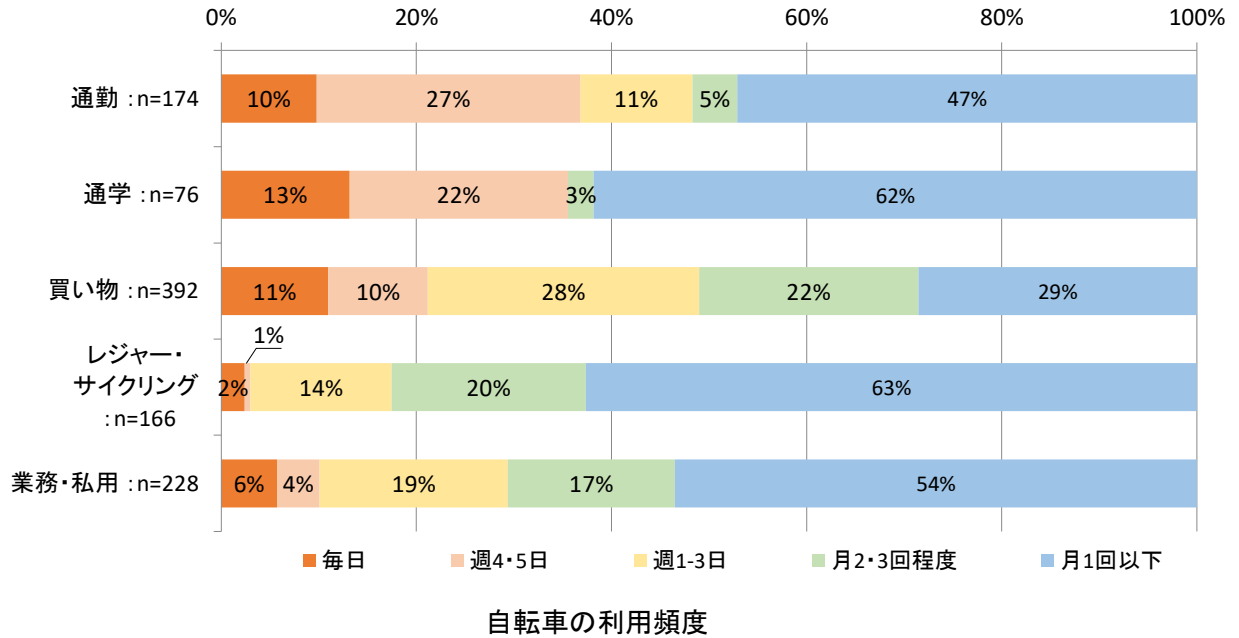


自転車の年代別保有率 (n=1,135)



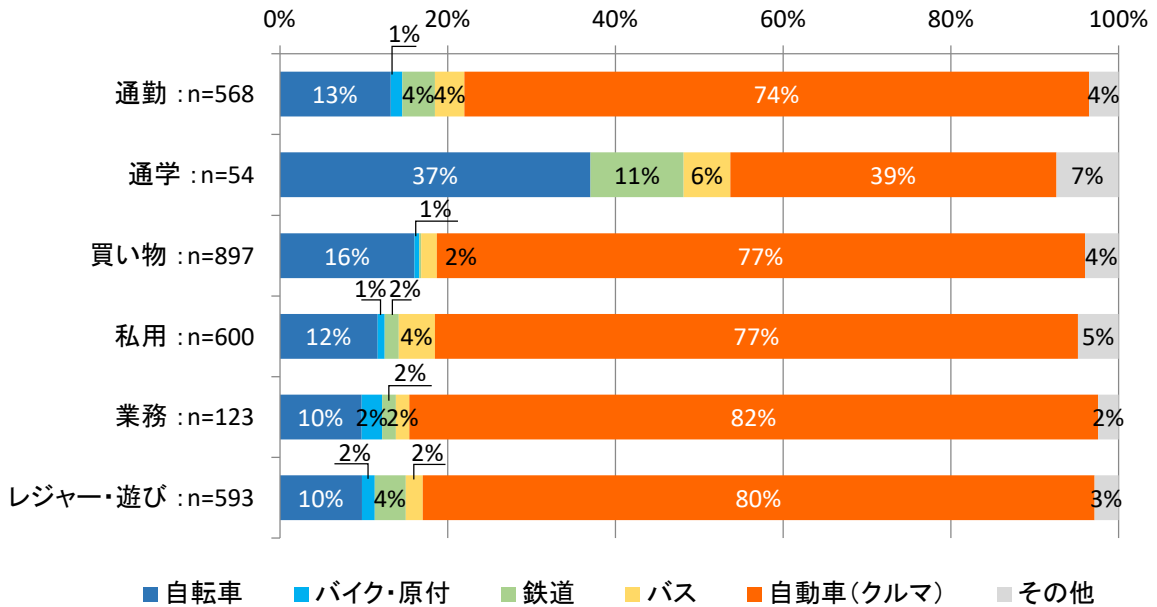
③自転車の利用頻度

週4日以上の頻度で自転車を利用する人の割合は、通勤・通学目的で約40%と最も多くなっています。



④移動目的別の主な交通手段

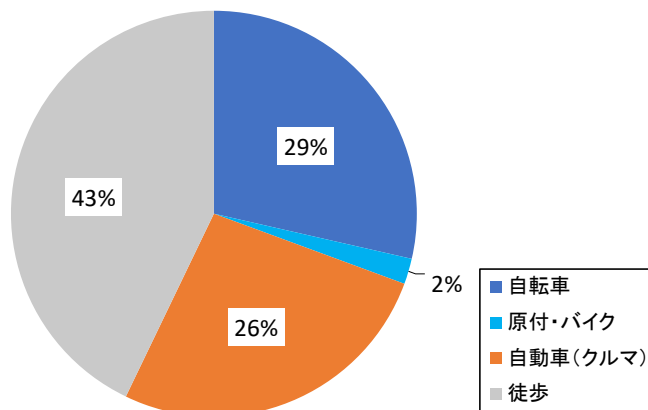
大部分の移動目的で車が最も多く利用されている一方で、通学目的では他の目的と比較して自転車が多く利用されています。



外出目的ごとの最もよく利用する（最も長い距離を移動する）交通手段の内訳

⑤通勤・通学時の端末交通手段

通勤・通学における「鉄道・バス利用」の主な端末交通手段としては、徒歩が最も多く自転車も約3割を占めています。



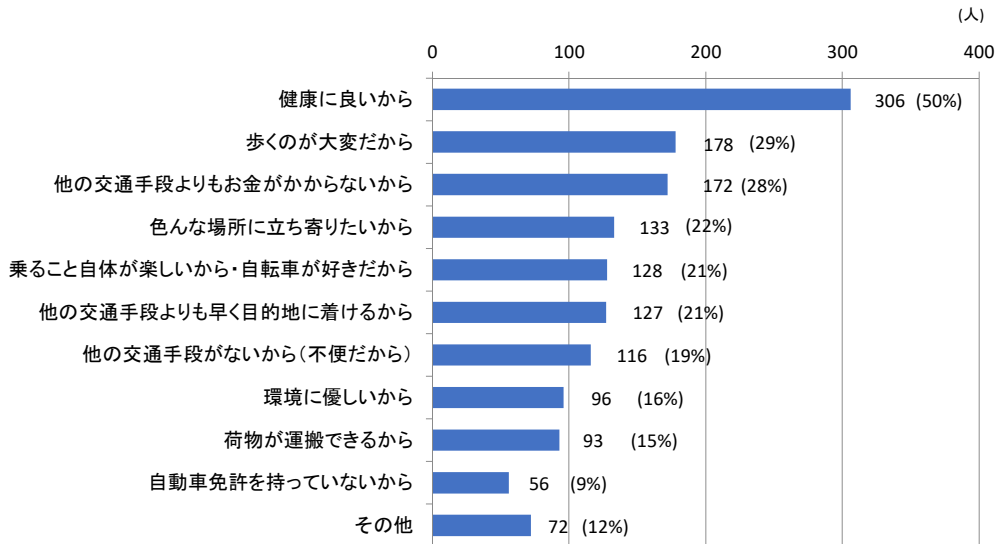
通勤・通学における端末交通手段 (n=49)



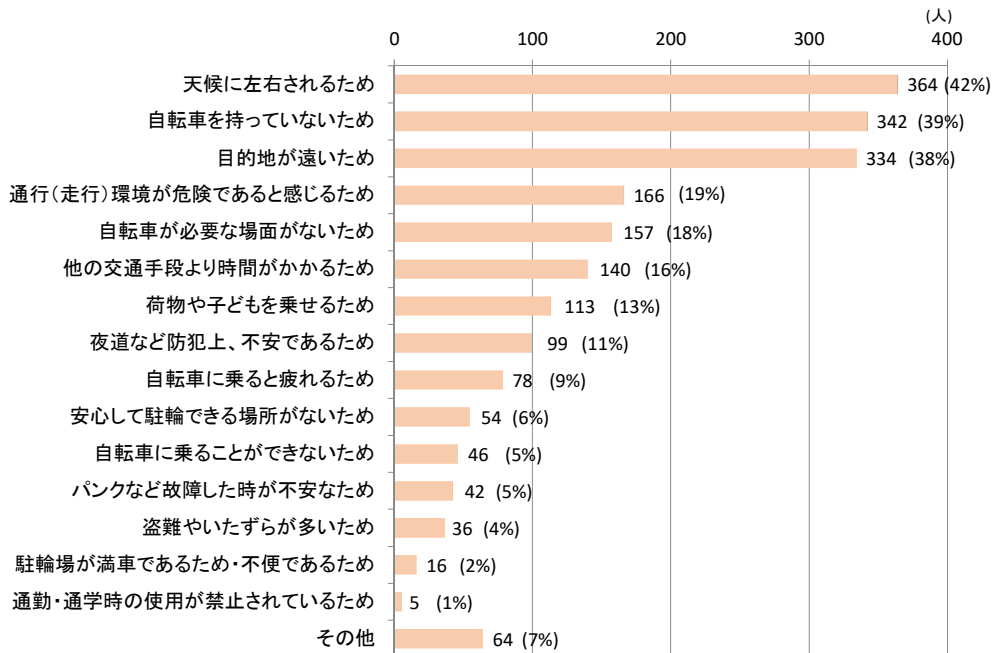
⑥自転車を利用する理由/利用しない理由

自転車を利用する理由としては、健康面を理由に挙げる方が約50%と最も多く、自転車を活用した健康づくりへの意識が高まっていると考えられます。

また利用しない理由としては、天候面(約42%)や目的地への距離面(約38%)に加え、自転車を持っていないこと(約39%)も大きな要因となっています。



自転車を利用する理由(複数回答可)

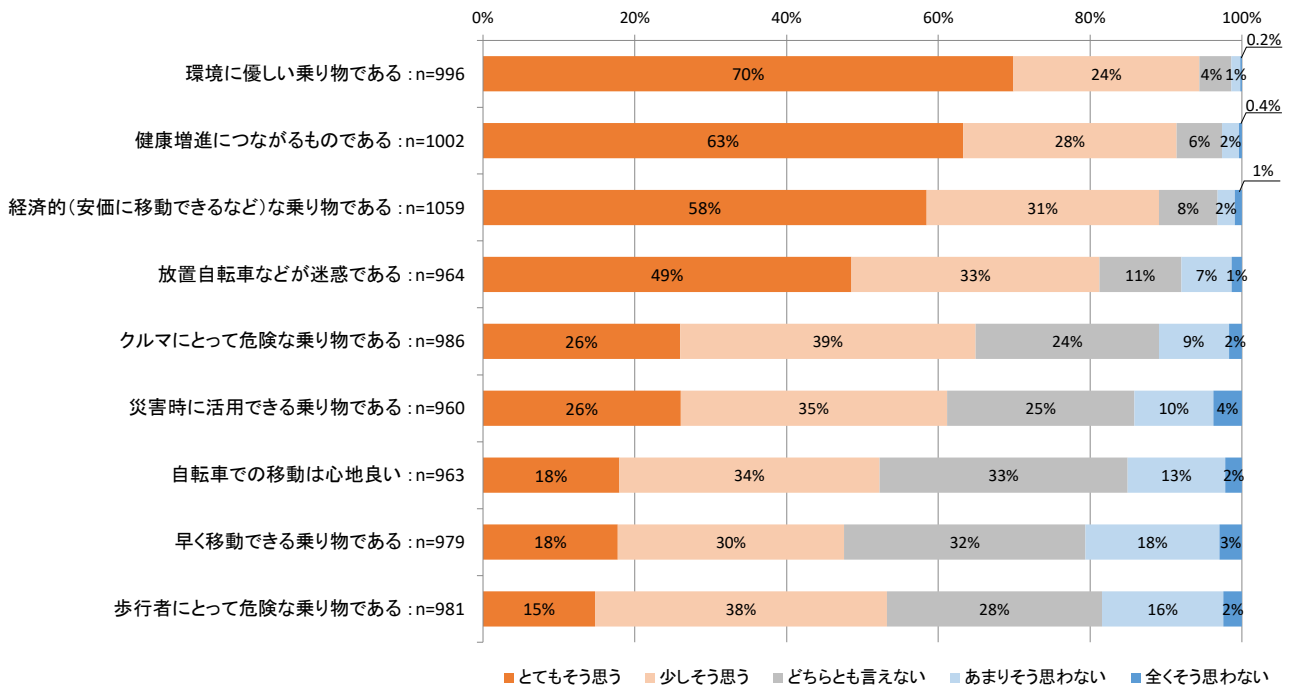


自転車を利用しない理由(複数回答可)



⑦自転車のイメージ

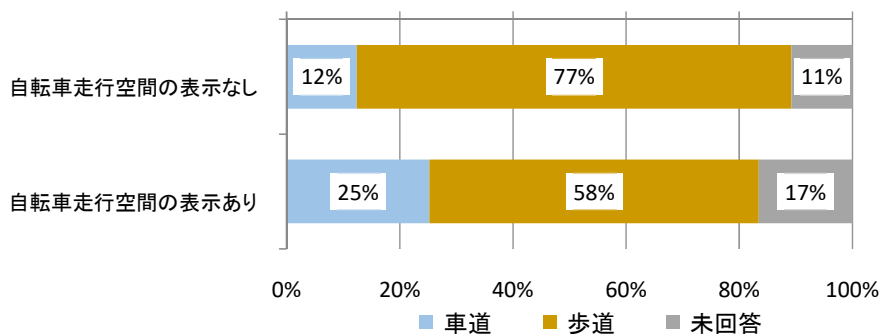
自転車のイメージとしては、環境面や健康面について肯定的な回答が特に多く、90%を超えています。



自転車に持っているイメージ

⑧自転車の通行位置

自転車走行空間が整備されていない場合と比較して、自転車走行空間を整備した方が車道の走行割合が高くなっています。

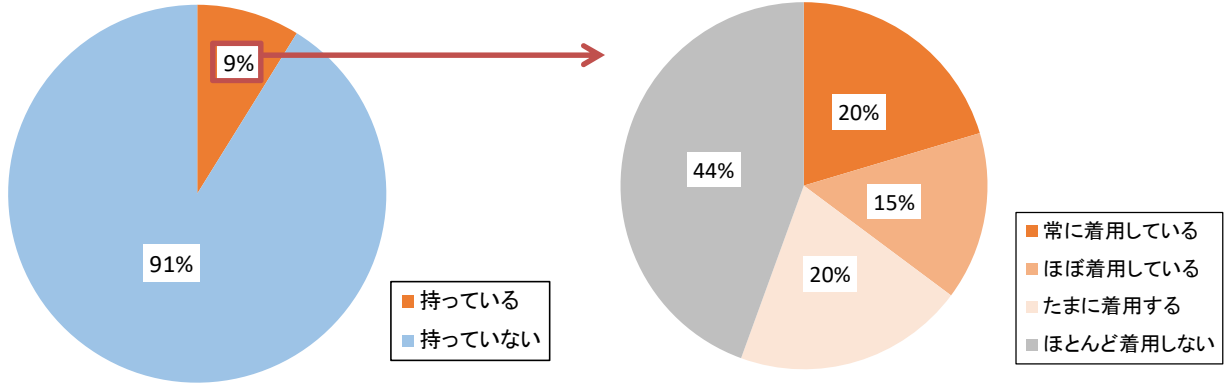


自転車の走行位置の内訳



⑨ヘルメットの保有・着用状況

ヘルメットを保有しているという回答率は9%です。加えて、ヘルメットを保有している方でも、「ほとんど着用しない」と回答した方が多い状況です。

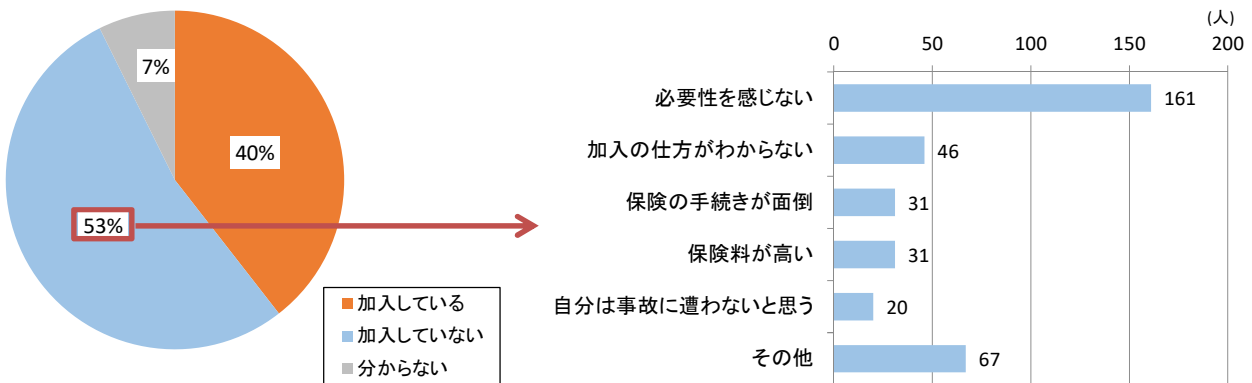


ヘルメットの保有状況 (n=623)

ヘルメットの着用頻度 (所有者のみ n=54)

⑩自転車の交通事故に対応する保険の加入状況

自転車の交通事故に対応する保険に加入していないという方が半数以上を占めています。なお、加入しない理由としては、必要性を感じていない方が最も多くなっています。



自転車の保険の加入状況 (n=560)

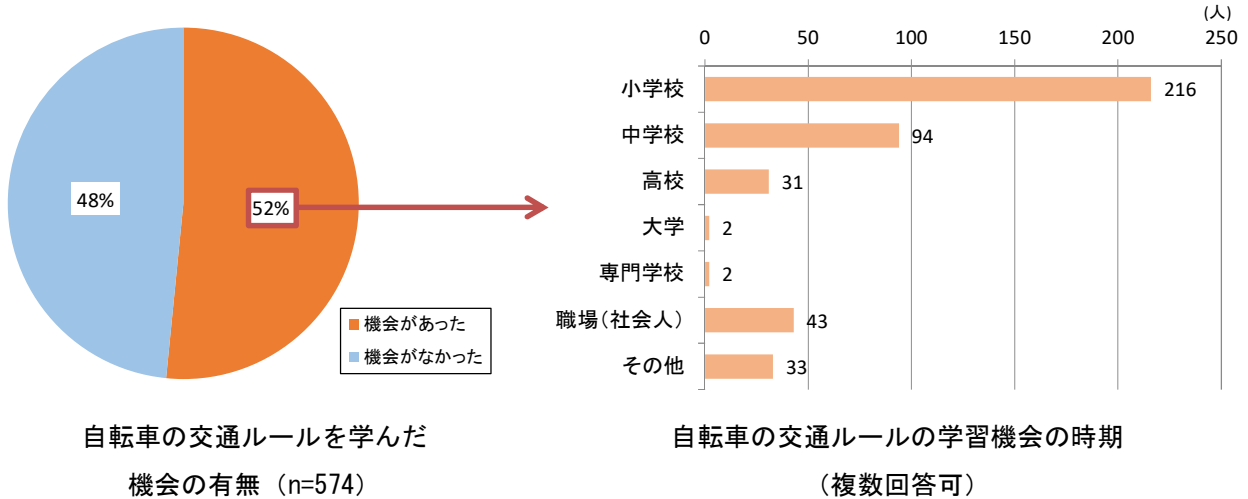
保険に加入していない理由 (複数回答可)



⑪自転車の交通ルールを学ぶ機会

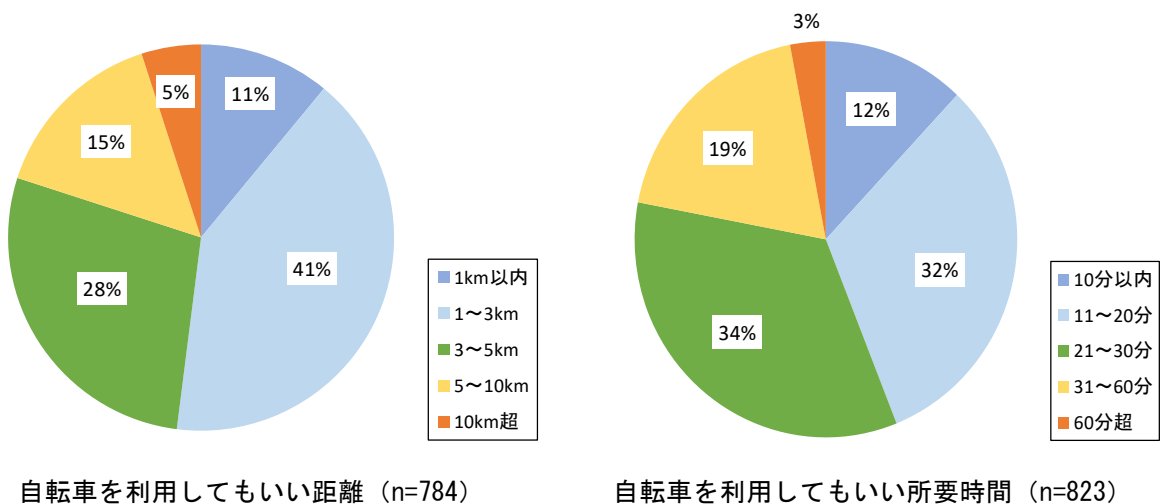
これまでに自転車の交通ルールを学ぶ機会がなかった方が約半数存在しています。

また、小学校で交通ルールを学ぶ機会は多い一方で、学年が進み大人になるほど交通ルールを学ぶ機会が得にくい状況です。



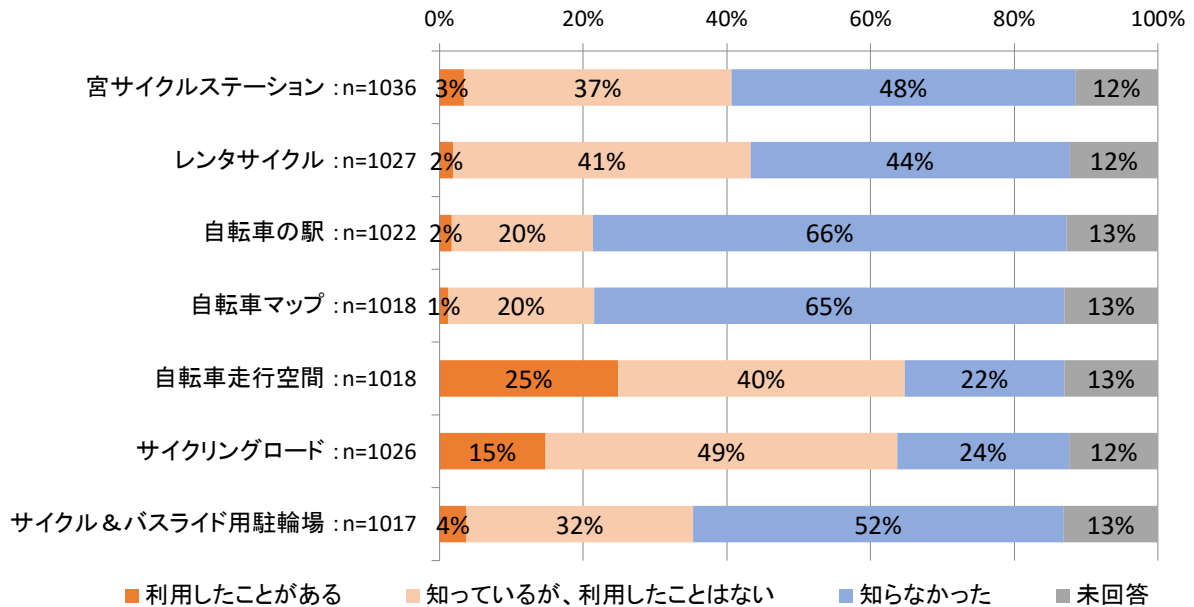
⑫自転車を利用しても良い距離・時間

自転車を利用しても良い距離は3km以内が全体の半数以上を占め、所要時間については20分以内が全体の約44%を占めています。



⑬自転車に関する施策・施設の利用・認知状況

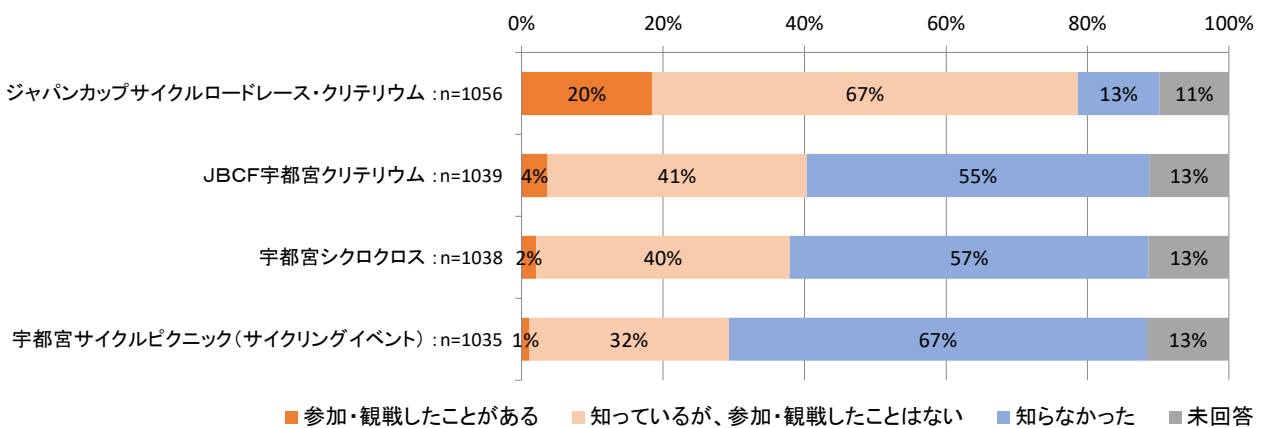
「自転車走行空間」や「サイクリングロード」については、利用したことがある/知っている方が60%を超えている一方で、「自転車の駅」「自転車マップ」については、知らなかったという回答が60%を超えています。このことから、市の実施している自転車の施策が十分に認知されていない状況が読み取れます。



自転車に関する施策・施設を利用・認知状況 (n=1, 171)

⑭市内で実施している自転車競技やイベントへの参加・観戦・認知状況

「ジャパンカップ」については、観戦したことがある/知っている方が87%を占める一方で、「ジャパンカップ」以外のイベントを知らない方が約半数となっています。このことから、広く市民の興味・関心が持てるイベントの創出が有効と考えられます。



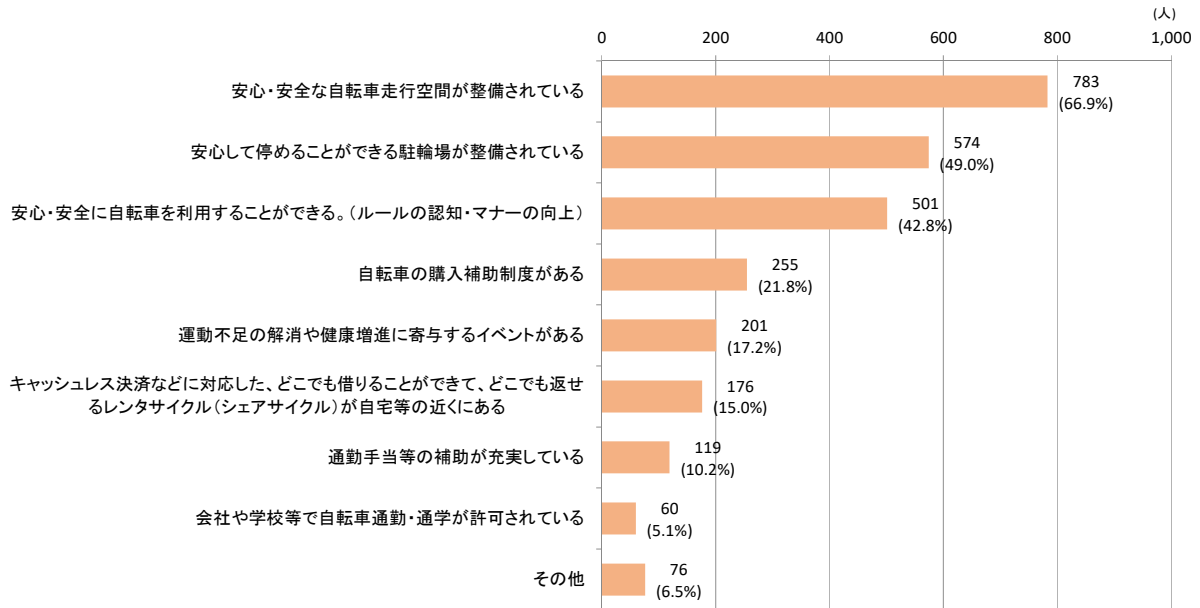
市内で実施している自転車競技やイベントへの参加・観戦・認知状況 (n=1, 171)



⑮ 自転車を利用するための環境・条件

自転車を利用（もしくは今よりも利用が増える）するための環境・条件としては、「安心・安全な自転車走行空間」を最も重要視しており全体の約67%、次いで「安心して停めることができる駐輪場」が約49%、「安心・安全な自転車利用（ルールの認知・マナーの向上）」が約43%となっています。

このことから、自転車利用の拡大を目指すためには、自転車走行空間や駐輪場の整備、ルールの認知・マナーの向上が効果的と考えられます。



自転車を利用するための環境・条件

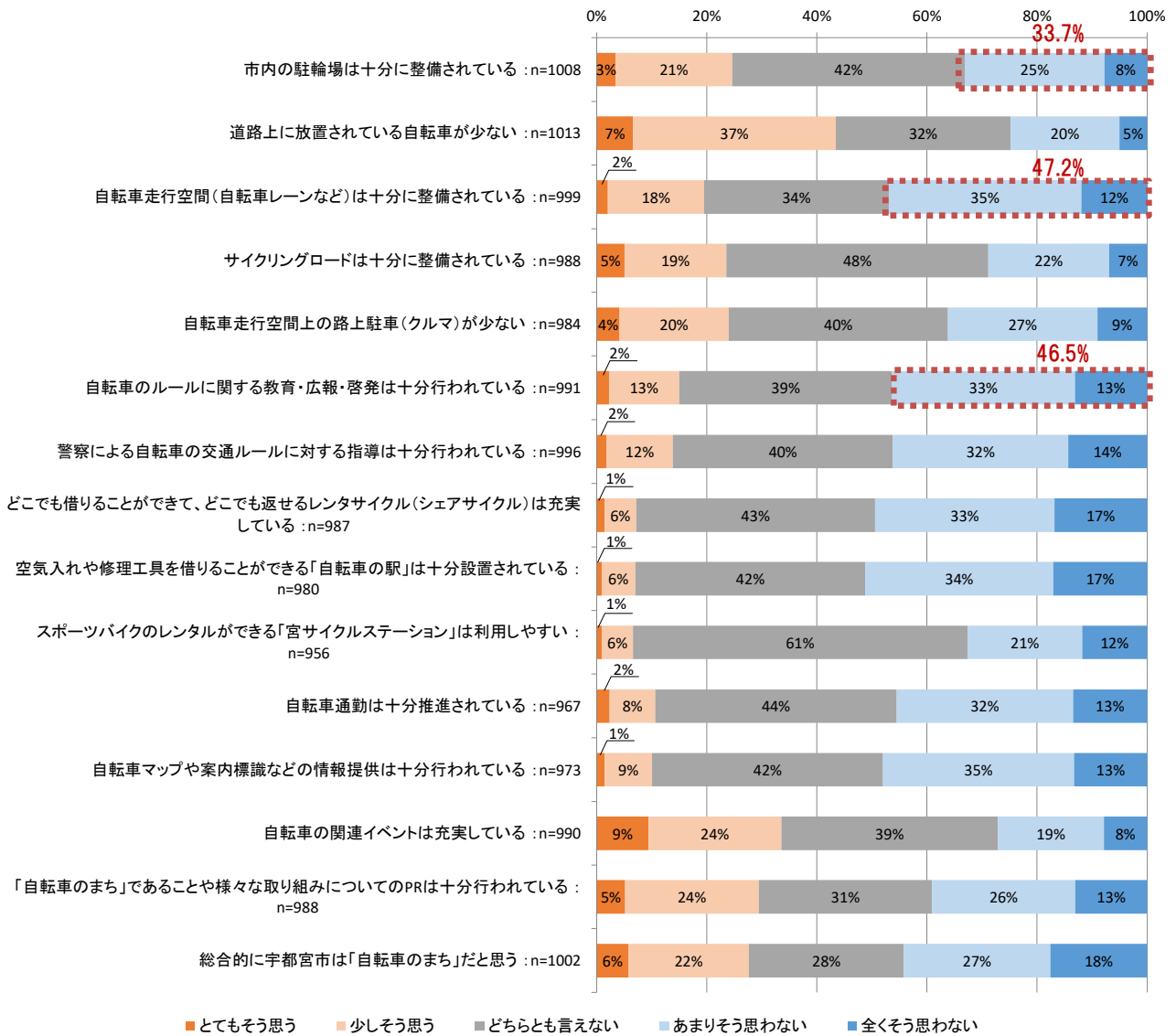


⑩ 「自転車のまち」としての各項目の達成度

「道路上に放置されている自転車」については、少ないと感じる方が約4割を占める一方で、「レンタサイクルの充実」「自転車の駅の設置数」「宮サイクルステーションの利用しやすさ」については、十分であると感じる方は10%にとどまっています。

また、「自転車走行空間整備が必要である」は47.2%、「自転車ルールの啓発が必要である」は46.5%、「駐輪場の整備が必要である」は33.7%となっています。

各種の自転車施策の認知状況が低いことも一因と考えられることから、認知度の向上と併せて満足度を高めていくことが、「自転車のまち」を目指すにあたって必要不可欠と考えられます。



自転車のまちとしての各項目の達成度



3.3 自転車に関する市民意識から見た課題

自転車に対する市民意識から見た課題は以下の通りです。

[自転車に関する市民意識]から見た課題

- 安全・快適な利用環境の創出，ルール遵守，認知度向上のための取組強化が必要です。
 - ・自転車を安全・快適に利用できるレンタサイクル，自転車走行空間整備，駐輪場整備
 - ・自転車の交通ルール遵守
 - ・ジャパンカップの認知度や自転車に対する健康意識を活かした利用促進

